

登壇者一覧

第1講 法律はどのように作られるのか？

—— 債権法改正の実務から学ぶ立法のプロセス

登壇者：松尾 博憲 弁護士（長島・大野・常松法律事務所）

2009年～2018年まで（2016年以降は非常勤）法務省民事局にて任期付公務員として民法（債権関係）改正の立案作業に従事した経験を有する。弁護士復帰後は、民法（債権関係）立案に関与した経験を活かし、企業の契約ひな型作成や契約解釈に関する紛争のサポートなどを数多く手がけているほか、リーガルテック企業とともにAI契約レビューのためのプレイブック開発なども手がけている。

第2講 外国法令はどこから手を付けるべきか？

—— EU法の構造とプロの情報収集アプローチ

登壇者：石川 智也 弁護士（西村あさひ法律事務所・外国法共同事業）

2020年よりドイツ在住。EUのデジタル分野における法令・政策に明るく、また、グローバルでのプライバシーガバナンス・AIガバナンスの体制構築や、各国のデータ保護監督当局への報告が必要となる大規模なサイバー攻撃事案への対応等を多数手がける。2024年より博士課程に進学し、EUのデータ法を中心に、EUのデータ利活用法制を研究。2026年、Chambers and Partnersの「TMT: Data Protection Germany」の個人部門でランクイン。日本経済新聞社が実施した「今年活躍した弁護士ランキング」において、AIガバナンス（2025年）第2位、AI・テック・データ部門（2024年）第2位。

第3講 先輩の言う「ちゃんと確認して」って、何をすればいい？

—— 意思決定を支える、AI時代のリーガルリサーチ設計

登壇者：落合 由佳 氏（株式会社メルカリ Legal Division / AI Governance, Manager）

日本電気株式会社を経て、ソフトバンクグループ株式会社に入社し、M&A、国内外の投資・資金調達案件に従事。その後、スタートアップに飛び込み、会社の立ち上げを経験。オープンドア株式会社法務部長を経て、2020年1月に株式会社メルカリ入社。LegalおよびAIガバナンスを担当し、全社のAI活用推進も兼務。社内外でAI活用に関する講師を務める。ニューヨーク大学ロースクール（LL.M.）修了、ニューヨーク州弁護士。

第4講 答えがないとき法務に何ができるか？

—— ビジネスを前進させるルールメイキングの選択肢

登壇者：南 知果 弁護士（一般社団法人 PublicMeetsInnovation 代表理事）

2016年西村あさひ法律事務所入所。2018年から法律事務所 ZeLo に参画し、スタートアップ支援、パブリック・アフェアーズ、Fintech、モビリティを中心に幅広く業務を行う。アメリカ留学（ペンシルベニア大学ロースクール、カリフォルニア大学バークレー校客員研究員）を経て、2022年11月～2024年12月、経済産業省にてスタートアップ政策を担当。著書に『ルールメイキングの戦略と実務』（商事法務、2021年）など。ALB Women in Law Awards 2021 - Innovator of the Year を受賞。

【ワークショップ】なぜ今「紙の六法」なのか？

——リーガルリサーチの基礎体力を鍛える

登壇者：白石 忠志 東京大学教授（法学部・大学院法学政治学研究科）

独占禁止法・スマホ法・取適法・フリーランス法・景品表示法などを専門としており、『独占禁止法 第4版』（有斐閣）、『独禁法講義 第11版』（有斐閣）などの著作がありますが、同時に、これまで大学法学部・法科大学院では条文に関する知識の体系的教育が十分にされてこなかったという問題意識のもとに、『法律文章読本』（弘文堂）、『法律の読み方がわかる本』（ちくま新書）などを刊行しています。『ポケット六法』を含む有斐閣の六法の編集委員です。